

私は民主連合を代表いたしまして、議案第1号令和6年度野田市一般会計予算から議案第6号までの国民健康保険、介護保険、後期高齢者医療の各特別会計、並びに水道、下水道事業会計の予算について、全て賛成の立場で討論いたします。

世界情勢の変化、特にロシアによるウクライナ侵攻、悪化する中東情勢の先行き不安により、世界経済は減速しています。IMF世界経済見通しによると、2023年が3.0%、2024年が2.9%にとどまる見通しです。また、新型コロナウイルス感染症が2類相当から5類相当となり、初めての予算組で予想できない面もあったと思います。

また、日本の経済は、マイナス金利を廃止し、利息のある世界になりました。約30年続いた賃金の低迷から脱却していくことに期待しており、よりよい未来を願っております。一方でこのことにより、景気の先行きが見えないので、経済状況を見込むことは困難であり、特に税収においては、間接的または直接的に跳ね返ってきます。

先日の春闘では、給料引上げに大企業側からほぼ満額の回答がありました。90%以上の方が中小企業で働いていることを忘れてはいけません。

さて、令和6年度予算案ですが、一般会計では、歳入面では、市税でマイナス1.7%と減収が見込まれており、交付金等に依存しているような状況ですが、これは当初予算なので、交付金や補助金が明確になってくれば、補正して執行していくことであると思います。

一方、歳出面では民生費の割合が高く、金額で約245億7,100万円、構成比で約45.9%となっており、いわゆる社会保障費が大きくなっている傾向だと思えます。一般会計の約半分に迫る勢いです。

令和6年度の野田市一般会計予算の総額は535億6,500万円で、昨年当初予算に比べて、12億9,000万円の増となっております。さきにも述べたように、これまでの当初予算とは違い生活様式が移行しているさなかに見込むことは困難な面があると思われま。

しかしながら、そのことと同時に丁寧な執行をお願いして、賛成といたします。

議案第2号令和6年度国民健康保険特別会計予算ですが、さきの常任委員会の野田市国民健康保険条例の一部を改正する条例の制定についてで、支援金分の保険料の賦課限度額の引上げと医療分、支援金分の均等割の料率の改正がされる見込みです。その中に、今後、経済状況を注視して、千葉県が示す標準保険料に近づけていく旨の答弁がありました。一般会計からの法定外繰入れが大きい印象がありますが、この先を見越しての予算と認識して、賛成

をいたします。

議案第3号令和6年度介護保険特別会計予算と議案第4号令和6年度後期高齢者医療特別会計予算も議案第2号令和6年度国民健康保険特別会計予算と同様に、余裕のある予算ではないと思われるが、介護保険においては、9期目の保険料改定であるので、歳入、特に保険料を注視して予算を執行していくことをお願いします。

そして、水道、下水道事業会計予算につきましても、今後、配水管の長寿命化対策が懸念されると思いますが、それぞれの目的に沿った予算措置がなされていることを認め、賛成といたします。